

## 佐賀県支部

### 「直売所に託したテーマと運営の手引き」調査研究

#### 第1章 直売所概観

農業者の所得向上や農産物の付加価値化を目指して、近年全国的な広がりを見せている農産物直売所(以下「直売所」という)。「地産地消」をキーワードに、直接販売によるコスト削減で生産者・消費者双方の利益が期待されている。JAやスーパーを経由する既存の流通経路に風穴を開け、自らも流通業化していく直売所の現状と今後の展望について、「全国農産物実態調査」(平成9年度・埼玉県実施)も交えながら考察していく。

#### 第2章 佐賀県農産物直売所の実態

佐賀県内各地でも直売所の開設・改築が進み、平成16年5月現在で154カ所が設置されている。七山村の鳴神の庄を発祥の地とし中山間地域に多く所在するが、近年ではより消費者に近い住宅地近郊への開設も進んでいる。個人・グループ経営、JA、第3セクター等、その経営形態も多様である。今回の調査結果も踏まえながら県内直売所の実態を検証し、成長産業として期待される直売所の役割についても考察する。

#### 第3章 アンケート調査

佐賀県内の直売所の実態を知るため、県内で把握されている150余りの直売所のうち、週1回程度の開催を除き、103の直売所に対しアンケート調査を実施した。回答に基づいて、現状把握・課題・今後の展望という方向で考察した。地元(県内)農産物のPRへの貢献度が高い一方で、直売所の規模(売上高)においては既に二極化の様相も表れている。

#### 第4章 直売所紹介

アンケートを送付した直売所から20カ所を選定して、訪問調査を行った。代表者との面接・現場の観察を通して、直売所の実態を収録した。JA主体で資金力と運営能力のある直売所、道の駅と併設して安定した集客力を持つ直売所、イベント企画といった独自の取り組みで地域との交流を深めていく直売所等、調査員が代表者の生の声・直売所の実態をレポートする。

#### 第5章 調査報告総括と提言

二極化が進む直売所の現状にあって、販売力や生産力、商品力等の面で直面する課題を整理していく。特に健闘している事例を改めて参照しながら、今後直売所のあるべき姿や方向性を提言という形で示す。併せて参考として、直売所の維持・発展に必要な事項をまとめた「直売所運営の手引き」を掲載している。